



伊勢型紙の技と模様

江戸小紋展

「伊勢型紙」は、室町時代の武士が袴を染めるようになって発展しました。江戸時代に入ると参勤交代が始まり、江戸城内で大名たちが袴の模様を競い合うようになったといわれています。小紋の特徴は、離れて見ると無地に見えますが、近くで見ると精緻な模様が施されており、大名たちはより細かい模様を競い合うようになりました。それらは皆、白子型に求められ、職人たちが勢い精緻な技を用いるようになりました。江戸中期には、庶民が小紋を染めるようになり、『江戸小紋』として爆発的に流行したといわれています。小紋を染めるために彫られ、一度に数枚の型紙を彫る「伊勢型紙」の技術は、この頃から寺家・白子で大きく発展し、門外不出の技術として守られてきました。現在では、保存会で彫られている四技法と糸入れとして、それらが継承されています。



展示内容

保存会会員の彫った型紙で染めた訪問着と着物
 伝承者・研修者・研修生の彫った型紙と生地見本染

彫刻実演

伝承者・研修者による
四技法と糸入れの実演



実演日時
 3月17日(土)・18日(日) 午前10時～12時
 午後1時～3時

伊勢型紙技術の保存と継承を図るために、保存会では後継者の養成にも力を注いでいます。

伊勢型紙
 ISE-KATAGAMI

伝承事業生の作品

会場
MieMu | みえむ | 三重県総合博物館 交流展示室
三重県津市一身田上津部田3060

2018年3月15日(木) ▶ 3月21日(水・祝)

休館日/3月19日(月) 開催時間/午前9時～午後5時(最終日は午後3時まで)

お問い合わせ 伊勢型紙資料館 **059-368-0240** 鈴鹿市白子本町21-30

主催/重要無形文化財保持団体 伊勢型紙技術保存会 共催/三重県総合博物館 後援/三重県、三重県教育委員会、鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会、NHK津放送局

